



今回は、SGH活動を活用した大学入試について報告します。

国公立大や難関私立大の AO・推薦入試では、①活動履歴(課題研究・資格等)、②研究計画(キャリアプラン)、③高い基礎学力、④高い表現力が求められます。関高校では SGH 活動を通じて、そのような力の習得をめざします。

◇ 2020年高大接続改革と関高校のSGH活動

文科省は、主に知識量や解法スキルの習得を問う従来型の入試から、思考力・判断力・表現力や課題発見・解決力を評価する入試へと転換する方針を打ち出しました。すでに各大学は学生募集に関わる方針(アドミッションポリシー)を打ち出し、「求める学生像」を明らかにしています。

新入試では、高校での探究活動の履歴、大学での研究や将来の夢を設計する力など、さまざまな観点からの評価も計画されています。基礎的学力に加え、自ら課題を見つけ解決する力が強く求められているのです。

◇ SGH活動と大学進学対策

SGH 活動で培った様々な力は、大学や実社会で大きな力を発揮します。では大学進学にはどのように関わるのか。以下に列挙してみます。

- ① 自身のキャリア意識の向上により、日々の学習や進学へのモチベーションが高まる。
- ② 活動を通じた視野の広がりや思考の深まりが、様々な教科・科目を支える基礎力となる。
- ③ 言語を活用したパフォーマンスが向上し、小論文・面接・ディスカッション・総合問題などの入試対策に直結する力となる。
- ④ 課題研究の成果をはじめとする活動履歴や、SGH 活動を通じて深めた自己のキャリアプラン(研究計画)を、第一志望の大学の AO 入試や推薦入試で活用する。

以上の4つのポイントのうち、今回は④の事例を紹介します。本年度の3年生は、SGH 第二期生。SGH 活動の成果を生かして第一志望の大学に合格した生徒は、国公立大学12名となりました。以下に一覧とその代表例を紹介します。

◇ 国公立大学推薦入試の合格先一覧

岐阜大学医学部医学科 (2名)

岐阜薬科大学薬学部薬学科

名古屋大学医学部保健学科看護学専攻

名古屋市立大学芸術工学部建築都市デザイン学科

愛知県立大学看護学部看護学科

岐阜大学教育学部学校教育教員養成課程美術教育

(以上、センター試験利用推薦)

名古屋工業大学工学部電気・機械工学科

岐阜県立看護大学看護学科

長野県立大学健康発達学部こども学科

和歌山大学観光学部観光学科

弘前大学農業生命科学部国際園芸学科

(以上、センター試験を必要としない推薦)